



安定したプレーで中盤を繋ぐ主将の碓井(撮影：森綾香)

駒澤大学1-1東京学芸大学

奮闘して得た1点守り切れず...
抜け出せない気の緩み

11月16日 13:50 東海大学湘南校舎サッカー場	
駒大 1 (0-0) 1 東学大 (1-1)	
得点者 (アシスト)	
[駒]85分須貝 [東]90分岡(佐藤)	
KOMAZAWA GK①大石健太(4) DF⑬大木 暁(3) DF④平尾優頼(3) DF⑤伊藤慎人(3) DF③田中雄一(4) MF⑥若山瞭太(4) MF⑦碓井鉄平(4) MF⑰平野篤志(2) (76分⑦キンデセン(1)) MF⑪小牧成亘(3) FW⑳吉岡雅和(1) (66分⑱須貝暁(3)) FW⑨小牟田洋佑(3) S U B GK②野村政孝(4) DF②友廣壮希(4) DF⑮川岸祐輔(3) MF⑳立石忠之(2) FW⑳糸井庸裕(4) MANAGER 秋田浩一	TOUGAKU GK⑫須賀健太(2) DF②大里康朗(4) DF③成田一輝(4) DF④脇本晃成(2) DF⑤廣木雄磨(3) MF⑩茶島雄介(4) MF⑭佐藤聖(3) MF⑮菅佑也(2) MF⑩五十嵐亘(2) (75分⑬平田惇(1)) FW⑬遠藤真(4) (68分⑨岡卓磨(4)) FW⑬中村風太(4) (68分⑦山崎直之(4)) S U B GK①谷口健太(4) DF⑥久司勇二(2) DF⑳京田寛治(3) MF⑲富澤右京(1) MANAGER 西園聡史
[シュート]4:9 [GK]6:13 [CK] 3:1 [直接FK]13:23 [間接FK]1:7 [主審]松澤慶和 [観衆]152人	
警告(C) / 退場(S)	

またも勝ちきれず…優勝遠のく痛いドロ—

前節の青学大戦で0-0と不完全燃焼で終わり、今節は優勝を狙う駒大にとって勝ち点3を手にすることが求められた。スタメンも定着メンバーの顔触れに戻り、負けられない一戦に駒大イレブンは挑んだ。

しかし前半序盤から試合は難航する。駒大の攻撃の要である小牟田が相手CB成田に完全に抑え込まれ、中央でのボール展開が許されない厳しい状況に。15分、36分とシュートまで持ち込まれる危ないシーンが続くが、どちらもクロスバーに助けられ難をしのぐ。

このまま打開策を見い出せないままかと思われたが、後半の流れは徐々に駒大になり始める。53分、相手のパスミスボールを奪った平野が速いドリブルで持ち込み、それにタイミングを合わせた吉岡が飛び込みゴールするが惜しくも判定はオフサイド。平野を中心とした右サイドで、相手陣内まで攻めあがりチャンスが生まれ始める。加えて66分に須貝、76分にキンを投入したことで攻撃にも勢いが増す。そして

85分、小牟田が相手CBと粘って裏へ流したボールに須貝が反応し、相手GKの逆を突くシュートでついに待望の先制点を獲得。このまま1点のリードを守りきると思われたが90分、オフサイド気味だがDFの裏をとられあっけなく1点を献上し試合終了。終了間際のまさかの失点でみすみす勝ち点3を手放してしまった駒大イレブンは無念の表情を浮かべた。

引き分けた時点で監督までもが優勝は厳しいと嘆いたが、翌日行われた東国大対関学大の結果が1-2で東国大が敗れた為、勝ち点差は広がらず、最終節で優勝をかけた直接対決にもつれ込むこととなった。勝利の女神は駒大イレブンを見捨てなかった。

碓井は失点について、「完全に自分達の気の緩みだった」と振り返った。一部昇格が決まって以来未だに気の緩みが抜けていないのか。泣いても笑っても次節の東国大戦が今季リーグ最後の試合である。東国大は二試合連続で勝利がない。両チーム消沈気味の中、果たして勝利はどちらの手に。「駒大らしいサッカー」で必ずや優勝を掴みとって欲しい。

(小金沢 遥)